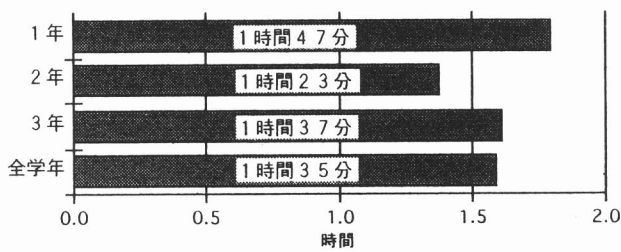


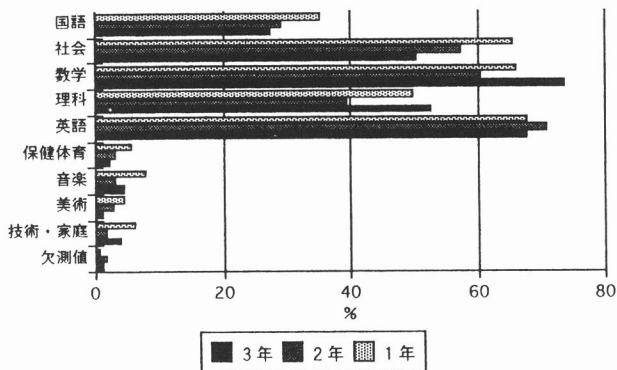
平均家庭学習時間



(5) 家庭学習で力を入れている教科

家庭で、英語、数学、社会、理科などに力を入れていることが分かる。国語は、これらに比べて家庭ではあまり力が入られていない。

家庭学習で力を入れている教科

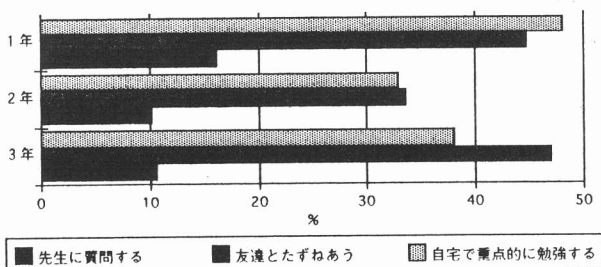


(6) よく分からないとき、どうするか

(先生に質問・友達と話し合う・図書館、参考書で調べる)

「自宅で重点的に勉強する」という答えが、最も多い。「先生に質問する」という生徒が少ないのはなぜだろうか。2年生の消極性などが目立つ。

よくわからないときどうするか

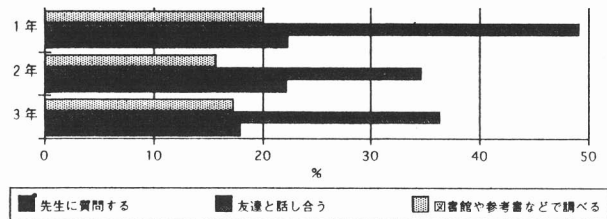


(7) もっと知りたいとき、どうするか

(先生に質問・友達と話し合う・図書館、参考書で調べる)

学習に対する、より主体的でより積極的な態度があるかどうか、という問いかけである。「友達と話し合う」という答えが最も多いのは、日常の観察からうなづけるように思えるが、「図書館や参考書で調べる生徒」よりも、「先生に質問する」生徒の方がやや多い。また、ここでも2年生は消極的である。

もっと知りたいときどうするか



これらの調査内容からまず第一に感じられることは、本県の中学生の学習に対する自主性の乏しさである。それは、学習時間の少なさや予習・復習の実施率などに端的に表れている。

また、調査した時期が7月ということもあり、1年生の回答から、新しい環境での初々しきや意気込みが感じられるのに対して、2年生の回答からは、むしろ消極的で、意欲の乏しさを感じさせられた。3年生は、「やらなければならない」という気持ちはあるものの、行動化できないているようにも見受けられた。

それらには、当然明確な原因があるはずである。今回の調査では、直接そこまで踏み込んではいないが、今後、究明しなければならないことのように考えられる。

註 1) 財団法人「日本学校保健会」(東京都港区)が平成4年に実施した健康調査。  
 2) 「児童生徒の健康状態サーベイランス」平成5年によれば、中学生の平均睡眠時間は、7時間40分であり、中学生の就寝時刻は、男子23:01分、女子23:19分となっている。また、起床時刻は、男女とも6:50分であり、女子の睡眠時間が男子より若干短い。  
 3) 平成6年7月、文部省生涯学習局生涯学習振興課「学習塾等に関する実態調査」